論文要旨

# 日韓の TOEIC における点数差はどこから来たのか？

## —社会的背景と受験対策教材の比較を中心にして—

ベ・ヨンワン（経済学部 3 年）

指導教員：境一三

グローバル化が進む中、普段の生活で外国語を使う機会が増えるなど、外国語学習への関心が高まっている。特に日本と韓国では、英語圏の国との文化交流や貿易などが盛んであることから、英語学習の動きが世界的にも目立つ。そのような中、英語能力を測定するための評価試験である TOEIC テストが、非営利テスト開発機関である ETS により制作された。

本稿では、TOEIC テストへの関心が特に高い日本と韓国の平均スコアを比較し、日本と韓国の間に存在する 56 点という点数差が、なぜ生まれたかを多方面から分析していく。本稿では TOEIC テストをめぐる日韓の社会的背景と、一番売れている受験対策教材の内容構成を比較する。

社会的背景では、韓国の受験者の約 5 割を占める受験目的、「就職の際に TOEIC スコアが必要だから」に着目し、日本と韓国企業が新卒採用の際、どれほどの点数を新卒社員に求めているのかを分析する。さらに、日本と比べて学歴社会の風潮が未だに根強く残っている、韓国の社会背景を踏まえた上で比較分析する。受験対策教材では、手軽さやテストのポイントを押さえたのが特徴である日本の教材と、学習者のスケジュール管理や復習が容易にできることが特徴である韓国の教材を比較分析する。